

6.1 環境配慮型先進トラック・バス導入加速事業〈環境配慮型先進トラック（電気自動車）導入事業〉

① EVトラック導入によるサプライチェーン全体のCO₂削減取組の社外への活用

事業概要

事業者概要	事業者名	株式会社トーウン (ダイムラー・トラック・ファイナンシャルサービス・アジア株式会社)
	業種	運輸・郵便
事業所	所在地	神奈川県
	総延床面積	-
補助金額	補助金額	約733万円
	補助率	2/3 (掛かり増し経費に対する)
主な導入設備	従前設備	ディーゼルトラック
	導入設備	EVトラック 1台 (8トン未満)
事業期間	稼働日	2022年2月
区分		新設
特長		電動トラックの新規導入により、軽油から環境に優しいエネルギーへの切り替えが実現でき、脱炭素社会推進に貢献した。エネルギー転換に伴い、コストが削減できた。また、電動トラックの有効利用に工夫している中、バラ積みからパレット積みに変更できたため、荷役の作業時間の削減にも繋がった。

システム図



【EVトラック】

写真

EVトラック



6.1 環境配慮型先進トラック・バス導入加速事業〈環境配慮型先進トラック（電気自動車）導入事業〉

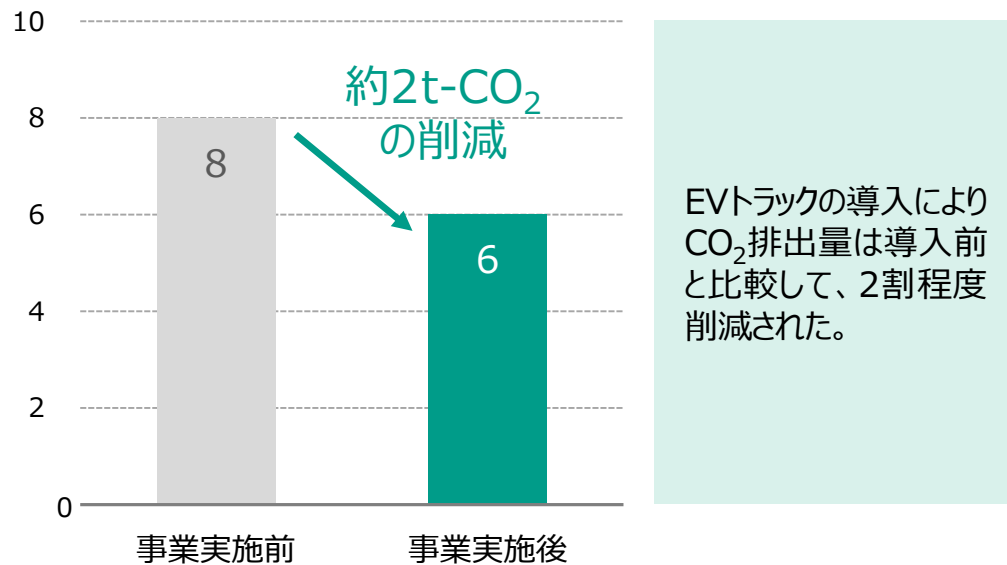
①EVトラック導入によるサプライチェーン全体のCO₂削減取組の社外への活用

事業の効果

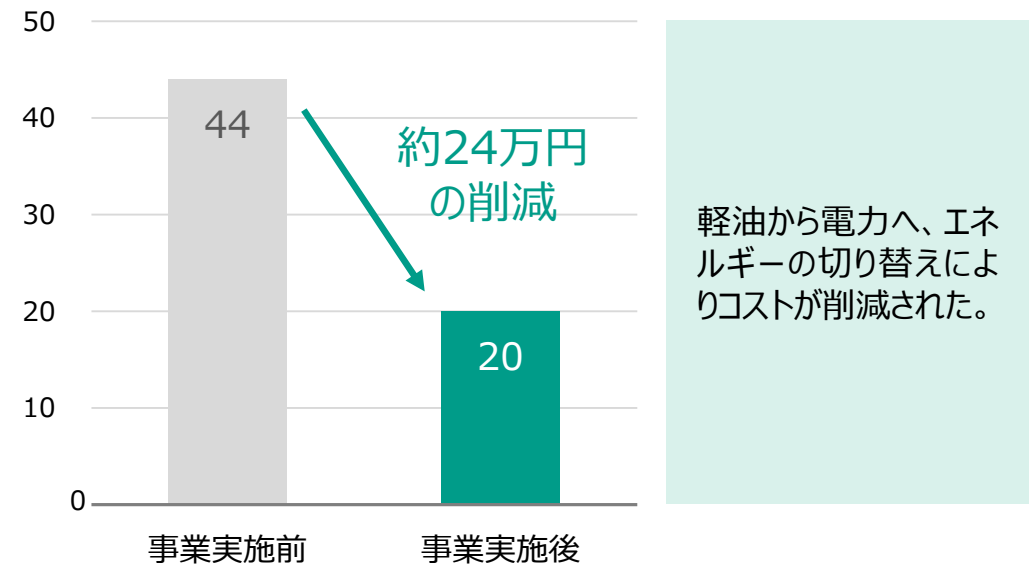
エネルギーコスト削減額		約24万円／年
投資回収年数	補助あり	約37年
	補助なし	約68年

CO ₂ 削減量	約2t-CO ₂ ／年
CO ₂ 削減コスト	336,454円／t-CO ₂

CO₂排出量 (t-CO₂／年)



エネルギーコスト (万円／年)



【脚注】

※ ここに示す事業の効果は、電力単価：15.2円／kWh（出典：電力・ガス取引監視等委員会）、軽油単価：142,000円／kL（出典：資源エネルギー庁HP）を用いて試算したものである。また、事業実施前は同サイズのディーゼルトラックを想定して試算をした。

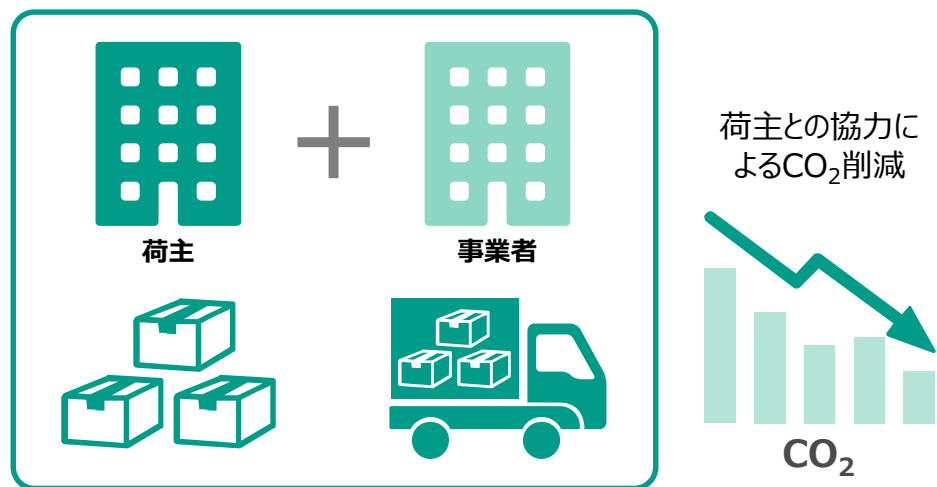
①EVトラック導入によるサプライチェーン全体のCO₂削減取組の社外への活用

事業によって実現できたこと／事業前にあった課題及びその解決方法

■「EVトラックの新規導入」によって、CO₂削減以外に、以下のような副次的効果があった。

- ・ 荷主からの依頼があったため導入を行った。サプライチェーン全体でのCO₂排出量が削減し、荷主のESGレポートにもこの取り組みが掲載された。
- ・ EVトラックは走行可能距離が短く、荷量が少ないというデメリットもある。有効活用するためには稼働時間を長くするため、荷主と協力しバラ積みからパレット積みに変えた。その結果荷役の作業時間が減少した。

サプライチェーン全体のCO₂排出量が削減



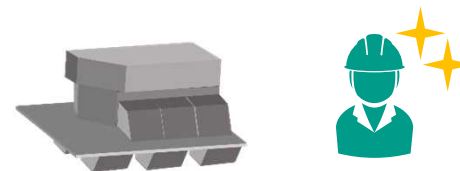
荷主との協力により、サプライチェーン全体のCO₂排出量が削減した。

荷役の作業時間の削減

実施前 バラ積みのため多くの作業時間が必要だった。



実施後 パレット積みにより荷物をまとめて積むことが可能となった。

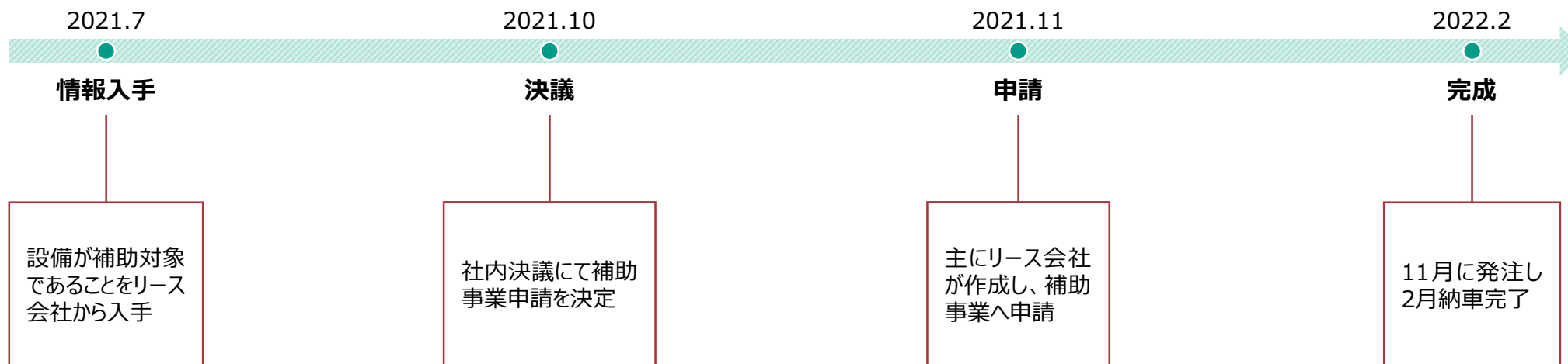


パレット積みにより、荷役の作業時間が削減した。

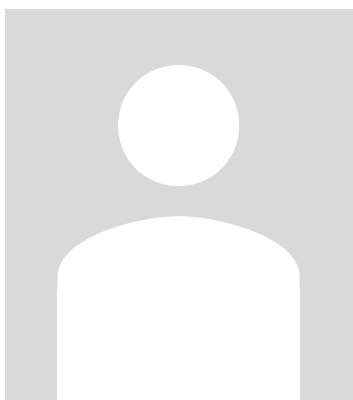
6.1 環境配慮型先進トラック・バス導入加速事業〈環境配慮型先進トラック（電気自動車）導入事業〉

①EVトラック導入によるサプライチェーン全体のCO₂削減取組の社外への活用

事業の経緯／今後の予定



事業者の声



小山 順市
南関東事業部 所長

- 脱炭素社会に向け当社EV動トラックの購入を検討しておりました。その際リース会社から情報を入手したので、補助金制度を利用させていただく事になりました。
- エネルギー転換によって、有害物質の排出も減少したので地域環境の改善にも貢献できたと思います。